
④鳥類調査（速報）

■調査実施日

- ・飛翔状況調査：平成26年9月9日
- ・生息状況調査： //

■ 鳥類調査の結果(速報)

飛翔状況調査 ～通過個体数～

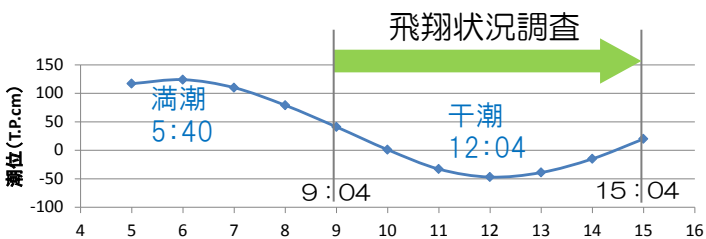


計画線上を通過する鳥類の種名・個体数の調査結果を以下に示す。

- ①目視とレーダーによる観察の結果、通過個体数の比較から約93%のマッチング精度(観測数/通過数)が確認された。
 - ②計画線上を通過した全鳥類のうち、シギ・チドリ類(141羽)とカワウ(143羽)で7割を占めていた。
- ⇒調査計画に基づき調査を実施した結果、計画線上を飛翔する鳥類を高精度で確認することができた。

■ 調査概要

飛翔状況調査では、計画線上を通過する鳥類の種類、個体数、飛翔位置を観察。



種等	側線通過数 (目視観察) (羽)	高度観測数 (レーダー観察) (羽)	飛翔状況(観測概況)
シギ・チドリ類	ダイゼン	95	94
	ミユビシギ	26	26
	シロチドリ	11	11
	イソシギ	3	2
	オバシギ	2	2
	ハマシギ	2	0
	メダイチドリ	1	1
	シギ科不明種	1	1
サギ類	アオサギ	2	2
	コサギ	2	2
	カラシラサギ	1	1
カモメ・アジサシ類	ウミネコ	11	10
	アジサシ	4	4
	セグロカモメ	2	2
タカ・ハヤブサ類	ミサゴ	44	37
	トビ	19	19
	チョウゲンボウ	1	1
ウ類	カワウ	143	134
その他	ツバメ	7	7
	イソヒヨドリ	2	0
	ハシブトガラス	2	0
	ハクセキレイ	1	0
合計等	382	356	観測数/通過数=93.2%

※側線通過数の合計：141羽
飛翔高度：2m以下～16m
右岸低空の飛翔通過が多く、89%が高度2m以下を飛翔

飛翔高度：2m以下～54m

飛翔高度：5～32m

飛翔高度：2m以下～213m
最高高度はトビ

飛翔高度：2m以下～27m
68%が高度2m以下を飛翔

飛翔高度(ツバメ)：
2m以下～63m



※事前調査にて撮影

注意) 飛翔した鳥類がレーダーに反応しない場合があるため、側線通過数と高度観測数は一致しない。

鳥類調査の結果(速報)

飛翔状況調査 ～飛翔位置、飛翔高度～

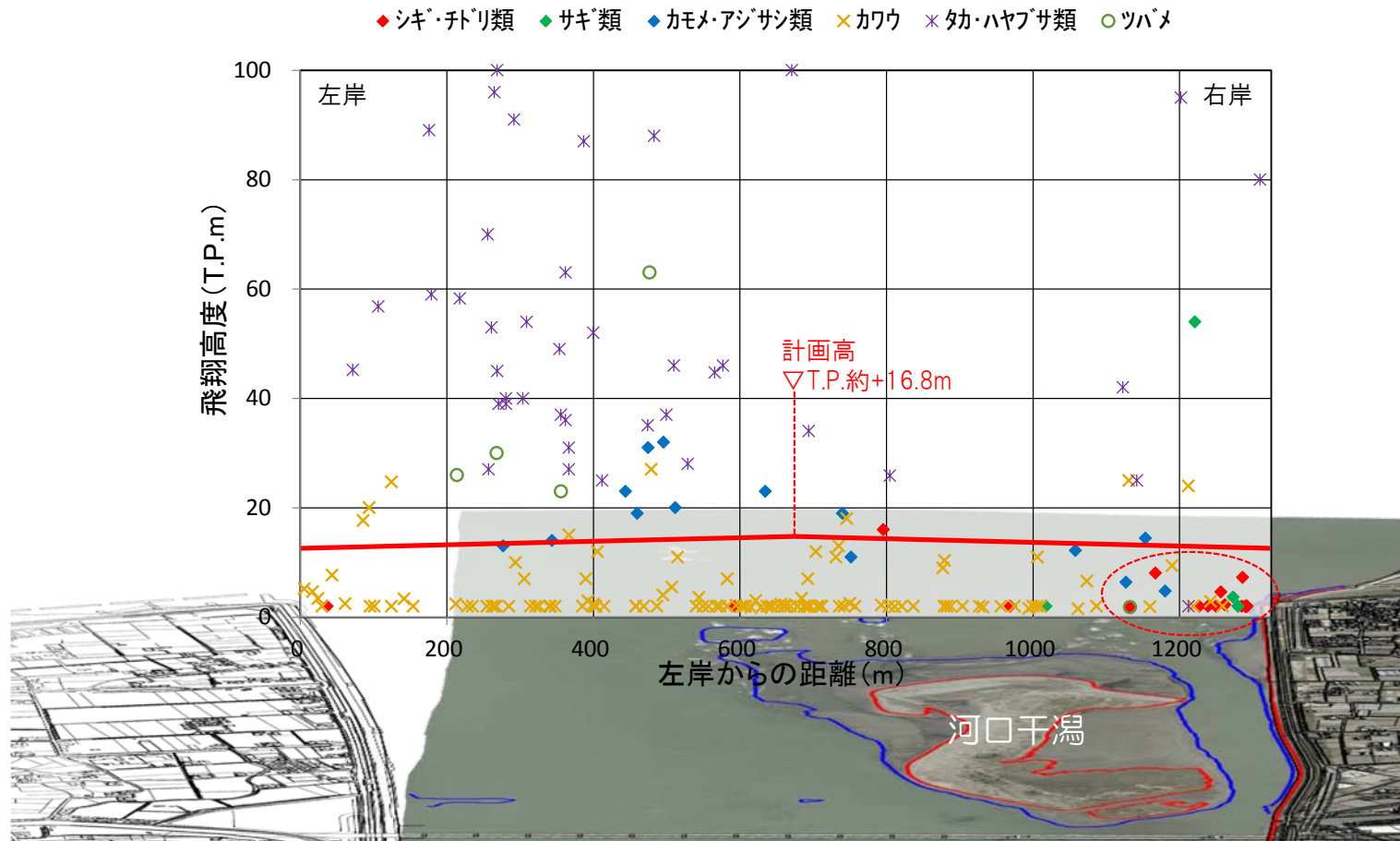


計画線上を通過する鳥類の飛翔位置(レーダー観測)を以下に示す。

①通過個体数が多かったシギ・チドリ類及びカワウは、高度2m以下で飛翔するものがあった。

②注目種のシギ・チドリ類の飛翔高度は、2m以下が89%で、右岸側の飛翔が82%を占めていた。

⇒計画線上を通過する9月の昼間のシギ・チドリ類は主に右岸低空(2m以下)の飛翔が多い状況を確認した。



※グラフ中の縦軸は飛翔高度(T.P.m)、横軸は左岸からの距離(m)

■ 鳥類調査の結果(速報)

生息状況調査 ～調査計画の変更～



生息状況調査の調査計画を以下のとおり見直します。

- ①観察内容 : 調査を実施した結果、当初想定していなかった干潮前後のb、cでの休息（aの採餌を想定していた）、および満潮前後のaでの採餌の行動が確認されたため、下表のとよりの観察を行った。
- ②エリア区分 : 調査領域：a（干潟）については、**これまでの環境部会の議論を踏まえ、阿波しらさぎ大橋の上下流で区分する。**

観察内容

■ 環境モニタリング調査計画

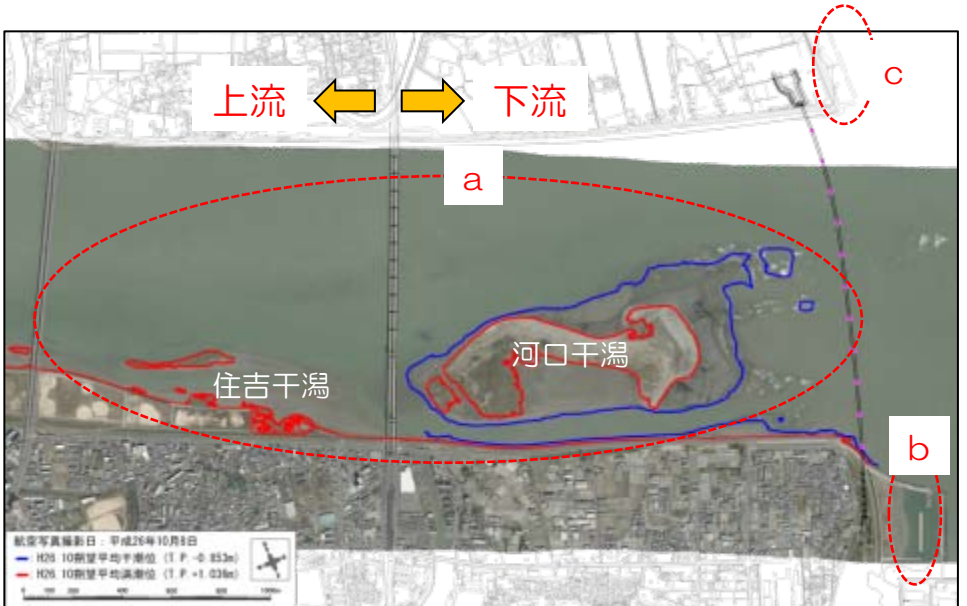
調査名	干満	出現状況 種名・個体数	行動	
			採餌 (a)	休息 (a~c)
生息状況調査	干潮前後	○ (a)	○	
休息状況調査	満潮前後	○ (a~c)		○

↓ ※干潮・満潮の両方の生息状況調査の中で行動を把握する。

■ 事前調査で実施した内容

調査名	干満	出現状況 種名・個体数 (a~c)	行動	
			採餌 (a~c)	休息 (a~c)
生息状況調査	干潮前後	○	○	○
	満潮前後	○	○	○

エリア区分



■ 鳥類調査の結果(速報)

生息状況調査 ～出現個体数(鳥類全体)～



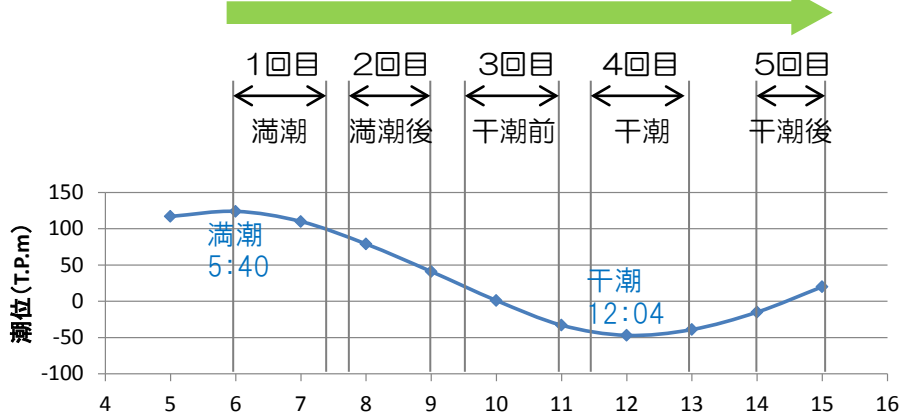
鳥類全体の出現個体数（河口干潟・住吉干潟・小松海岸・人工海浜の出現個体数の合計）の調査結果を以下に示す。

- ① 鳥類全体が多く出現する時間帯は、**干潮前（408羽）** 及び **干潮時（387羽）** であることが確認された。
 - ② 出現数が多かった種は、順番にダイゼン（110羽）、カルガモ（82羽）、シロチドリ（71羽）であった。（最大数）
- ⇒ 吉野川渡河部周辺は、多くのシギ・チドリ類をはじめとした多くの鳥類が出現し、生息環境として重要な場所であることが確認される。

■ 調査概要

※ 生息状況調査では、鳥類の**種類、個体数と行動**（採餌・休息）を観察。

生息状況調査



種等	生息状況調査					最大数	
	1回目 (満潮)	2回目 (満潮後)	3回目 (干潮前)	4回目 (干潮)	5回目 (干潮後)		
シギ・チドリ類	ダイゼン	81	79	110	81	77	110
	シロチドリ	2		44	71	12	71
	ミヅヅギ	11	6	34	24	4	34
	キアツギ	9	5	1	3	1	9
	マガイドリ	3	7		2	1	7
	ソリハツギ	6	1	4	7	6	7
	イツギ	1	6	2	3	3	6
	トウネ				2	4	4
	カヅギ	2	3	2	2	1	3
	オソリハツギ	1	2	2	1	1	2
	チュウヤクギ			1			1
	アオアツギ			1		1	1
	コバヅギ	1		1			1
	ハマヅギ			1			1
	キリア					1	1
サギ類	アサギ	15	14	30	23	30	30
	ダイサギ	7	12	11	5	6	12
	コサギ	2	3	5	6	6	6
	クサギ		2				2
	カラサギ			2	2	1	2
カモ類	加ガモ	26	48	54	82	46	82
カモメ・アシサシ類	ウミネ	37	2	3	1		37
タカ・ハヤブサ類	トビ	28	31	12	2	11	31
	ミサジ	3	4	2	3	2	4
ウ類	カウ	4	43	62	55	60	62
	ハシボコガラス	34	40	9	9	12	40
	ムクドリ	22					22
	ハシブトガラス		3	12			12
	セッカ	2	6				6
	スズメ		5				5
	イビヨドリ	3	4	1	2	3	4
	ツバメ	3					3
	ヒバリ		2	2			2
	ハシゲイ	1	2				2
	キバト	1					1
	セウゼイ		1		1		1
	合計等	305	331	408	387	289	624



■ 鳥類調査の結果(速報)

生息状況調査 ～出現個体数(シギ・チドリ類)～



シギ・チドリ類の出現個体数の調査結果を以下に示す。

①満潮頃：人工海浜に多く出現（最多101羽）。 ②干潮頃：河口干潟+住吉干潟に多く出現（最多120羽）。
 ⇒9月の昼のシギ・チドリ類の多くは、満潮頃に人工海浜で休息し、干潮前より採餌のため干潟へ移動し、干潮後より休息のため再びねぐらである人工海浜に移動していると推察される。
 ※干潮後は河口干潟で群れで飛翔していた個体が多かった。これは、ねぐらへ休息に戻るために群れを形成していたと推察される(鳥の習性)。

■ 区域別出現個体数

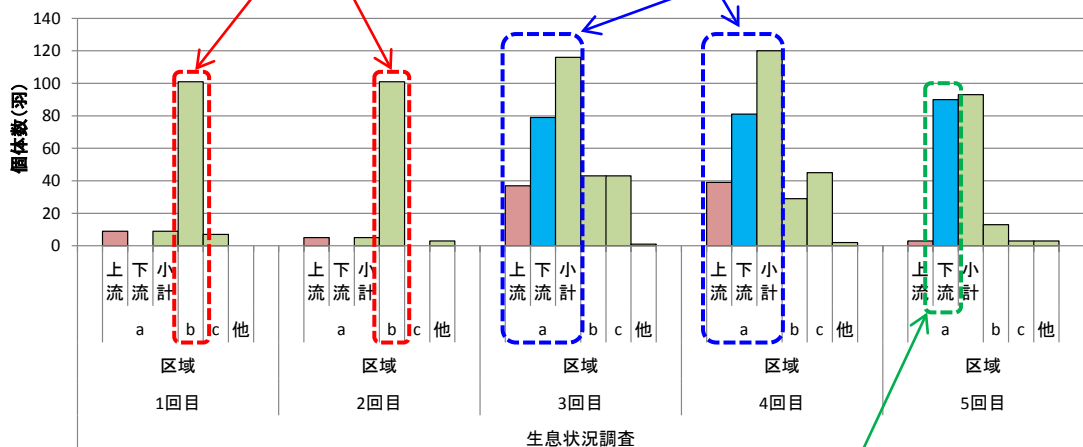
生息状況調査	区域						総計
	a：河口干潟+住吉干潟			b 人工海浜	c 小松海岸	他	
	上流	下流	小計				
1回目(満潮)	9	0	9	101	7	0	117
2回目(満潮後)	5	0	5	101	0	3	109
3回目(干潮前)	37	79	116	43	43	1	203
4回目(干潮)	39	81	120	29	45	2	196
5回目(干潮後)	3	90	93	13	3	3	112

注意) 上流・下流は、阿波しらさぎ大橋を境界としている。

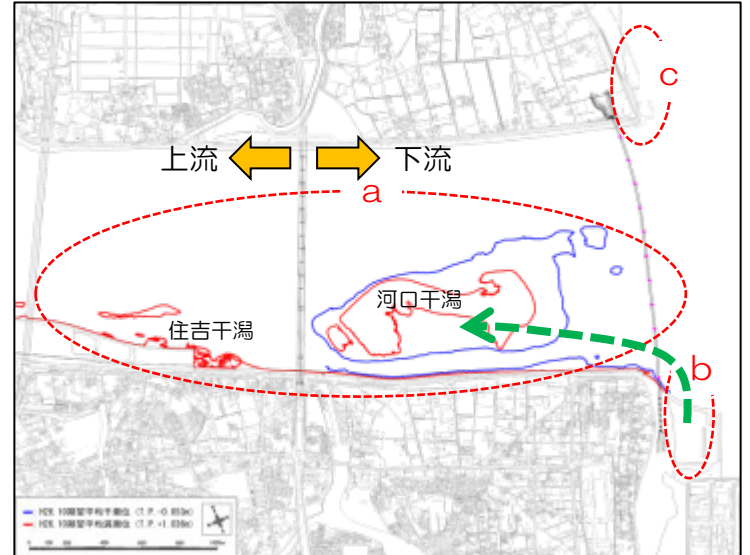
■ 概要

- 満潮頃（1回目、2回目）
マリンピア沖洲人工海浜に多い（最大101羽）。
↓
- 干潮頃（3回目、4回目）
干潟に多い（最大120羽）。
↓
- 干潮後の上げ潮時（5回目）
干潟に多く、群れを形成して飛翔していた。

※満潮頃に人工海浜に多く出現 ※干潮前より干潟に多く出現



※干潮後の上げ潮に河口干潟で多く出現
 (ダイゼンが70羽飛翔していた)



■ 鳥類調査の結果(速報)

生息状況調査 ～採餌個体数(シギ・チドリ類)～



シギ・チドリ類の採餌個体数の調査結果を以下に示す。

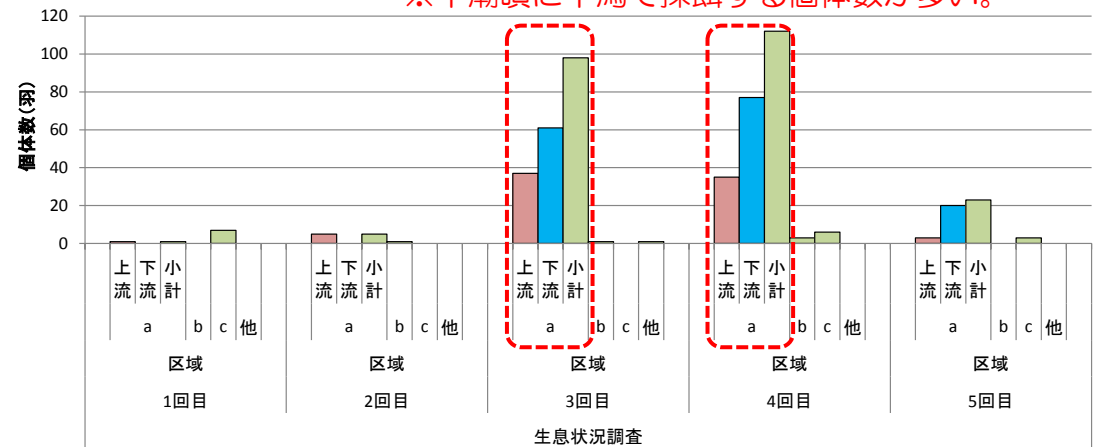
①満潮頃：採餌する個体は少ない。 ②干潮頃：干潟にて採餌する個体が多い(最多112羽)。
 ⇒9月の昼のシギ・チドリ類の多くは、干潮頃に「河口干潟と住吉干潟」で採餌する状況が確認される。

■ 区域別確認個体数 (採餌個体数)

生息状況調査	区域							総計
	a: 河口干潟+住吉干潟			b 人工海浜	c 小松海岸	他		
	上流	下流	小計					
1回目(満潮)	1	0	1	0	7	0	8	
2回目(満潮後)	5	0	5	1	0	0	6	
3回目(干潮前)	37	61	98	1	0	1	100	
4回目(干潮)	35	77	112	3	6	0	121	
5回目(干潮後)	3	20	23	0	3	0	26	

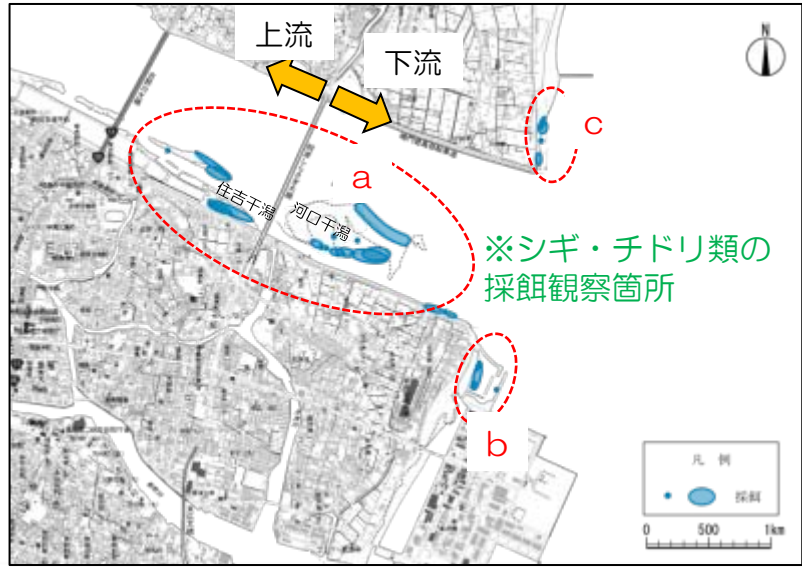
(注意) 上流・下流は、阿波しらさぎ大橋を境界としている。

※干潮頃に干潟で採餌する個体数が多い。



■ 概要

- 満潮頃 (1回目、2回目)
干潟で採餌する個体が少ない。
- 干潮頃 (3回目、4回目)
干潟で採餌する個体が多い。
(上流はダイゼンが、下流はダイゼンとミユビシギが多い)
- 干潮後の上げ潮時 (5回目)
干潟で採餌する個体数は少ない。
(前述の河口干潟にて群れを形成して飛翔する状況を確認した)



■鳥類調査の結果(速報)

生息状況調査 ～休息個体数(シギ・チドリ類)～



シギ・チドリ類の休息個体数の調査結果を以下に示す。

- ①満潮頃：人工海浜で休息する個体が多い(最多100羽)。
 - ②干潮頃：人工海浜と小松海岸にて休息する個体が多い。
- ⇒9月の昼は、干潮時は主に人工海浜での休息が確認される。なお、干潮時も人工海浜、小松海岸での休息がみられる。
- ※ダイゼンは干潟へ移動して採餌(飛翔状況調査の通過数が多い)、シロチドリは人工海浜か小松海岸で休息(飛翔状況調査の通過数が少ない)。

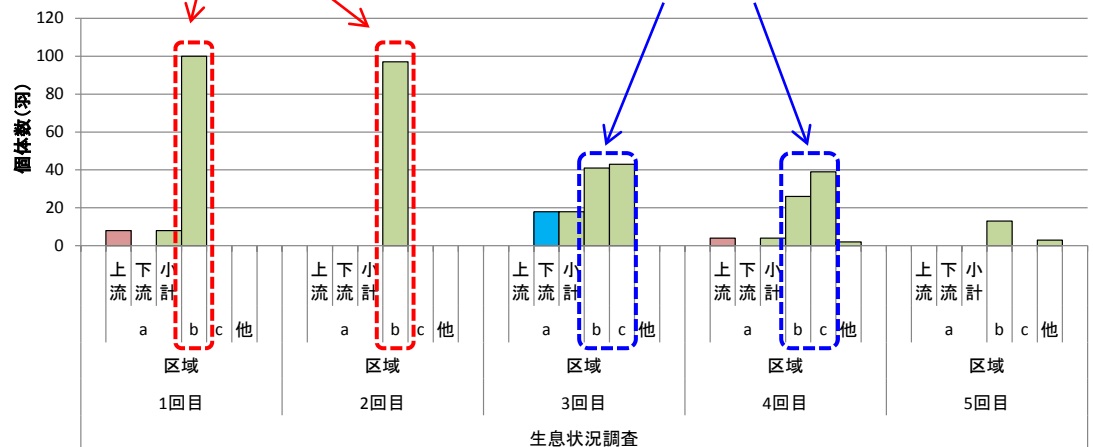
■区域別確認個体数(休息個体数)

生息状況調査	区域						総計
	a: 河口干潟+住吉干潟			b 人工海浜	c 小松海岸	他	
	上流	下流	小計				
1回目(満潮)	8	0	8	100	0	0	108
2回目(満潮後)	0	0	0	97	0	0	97
3回目(干潮前)	0	18	18	41	43	0	102
4回目(干潮)	4	0	4	26	39	2	71
5回目(干潮後)	0	0	0	13	0	3	16

(注意) 上流・下流は、阿波しらさぎ大橋を境界としている。

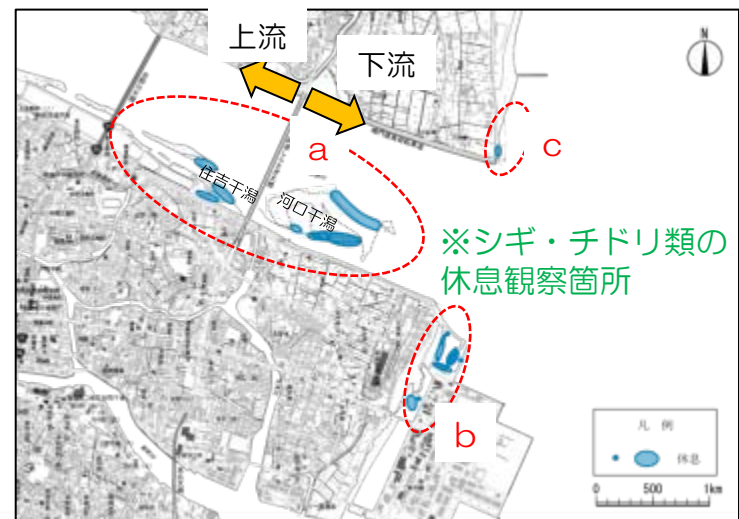
※人工海浜で休息する個体が多い。

※人工海浜と小松海岸で休息する個体が多い。



■概要

- 満潮頃(1回目、2回目)
人工海浜で休息する個体が多い(最大100羽)。
(ダイゼンが多く、その他のシギ・チドリ類も休息していた)
- ↓
- 干潮頃(3回目、4回目)
人工海浜と小松海岸で休息する個体が多い。
(3回目では、人工海浜ではダイゼンが、小松海岸ではシロチドリが休息していた。4回目では、人工海浜と小松海岸でシロチドリが休息していた。)
- ↓
- 干潮後の上げ潮時(5回目)
休息する個体が少ない。



※シギ・チドリ類の休息観察箇所

※生息状況調査でシロチドリがb,cで多く確認されたが、飛翔状況調査では少なかった。これは、調査時に人工海浜と小松海岸で休息し、住吉・河口干潟に来なかったためと考えられる。

